目黒学院高校同窓会だより

No.37

平成19年6月発行

桐 KIRI

平成18年度会務報告

同窓会会長

安　達　富　夫

（昭和43年 3月卒）

さわやかな初夏の季節となりました。先日、同窓会の役員会で学校を訪問した折りに気がついたことですが、母校の最寄り駅である「中目黒」駅前が大きく変貌しつつあります。駅改札口を出て山手通り（環状6号線）を渡った右手一帯の建物が、すべて取り壊され再開発が進行中です。地元の方にお聞きしたところ、数年後には高層のビルが建築され、上層部はマンション、下層部分はショッピングセンターになるとか。久しく母校を訪ねられていないＯＢの皆さん、たまには母校へ足を運ばれてはいかがでしょうか。皆さんが学んだ頃とはまた違った景色が見られるのではないでしょうか。

まず、本誌を通してこの1年間の経過報告等をさせていただきます。

母校の行事につきましては、例年同様、卒業式に同窓会から代表が出席して、新会員となる卒業生に祝意を表してまいりました。

次に、本会の会員数について申し上げますと、去る3月10日の卒業証書授与式を以て、新たに185名の新会員を迎え、会員総数では29,355名を数えるにいたりました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、4組8名でありました。（8頁記載）

また、同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成18年度は7頁にご芳名記載のとおり181名の方々から納入をいただきました。ここに、謹んでお礼を申し上げます。この賛助会費は、すでに本誌にてたびたびご案内させていただいたとおり、平成14年度から納入対象者、納入金額ともに見直しをさせていただき、一口1,000円で全会員を対象としてご協力を仰いでおります。

ところで、この賛助会費については、同窓会の危機的な財政状況を打開するため、平成元年から納入をお願いいたし、ご協力をいただいてまいりました。以来、この18年間にご協力くださった方々は延べ約3,020名、金額では1,365万円を超える結果となり、本会の財政再建に大きく寄与してくれております。大変に有り難うございます。

一方、本会では、平成17年度から学校側のご理解をいただき、在学中に在校生が納付する同窓会費を年額3,600円に改定し、2年が経過しました。その結果、3頁掲載の平成19年度予算では、6年ぶりに収入超過予算の編成を行うことが出来ました。

本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費（同窓生年会費）の払込通知票を同封させていただきましたので、会員諸兄のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成19年度の本会の活動は、明年、3年ぶりの総会・懇親会を開催するに当たり、その準備を行う年となります。そこで、会員諸兄におかれましては、ご自分が出席したいとしたら、どういう総会・懇親会を希望なさるのか、是非、ご意見をお寄せください。具体的には、①開催の時期、②開催時間、③開催場所、④参加費、⑤懇親会の内容等、何でも結構です。ご意見は同窓会のホームページから電子メールで、〈kiri@meguro.ac.jp〉までお寄せください。

皆様に喜ばれる総会・懇親会を開催してまいりたいと思っております。ご意見、お待ち申し上げております。

昨年秋、突然、かつて目黒工業高校に在籍されていた方から私にお電話とお葉書でご連絡がありました。その内容は、わけあって残念ながら母校を卒業することが出来なかったこと、年々、歳を重ねるに及んで、かつての旧友との再会が楽しみであり、そのためにも本会の会員の一角に加えていただきたいとの、せつせつたる思いのお話をいただきました。長年にわたって同窓会活動にかかわってきた私ですが、このようなお話は初めてのことでした。そこで、私としては、お申し出された方のご意向に出来るだけ沿いたいとの思いで検討させていただきました。会員資格については、同窓会の会則、第5条で定められており、「本会の会員は、目黒学院高等学校（目黒高等学校）の卒業生並びに本会が特に認めたものとし、……」とありますので、これを拠り所として、本年に入って役員会に上程させていただきました。役員会では、入会にあたっての条件について、いくつかのご意見が出されましたが、入会を認めることに関しては役員皆様のご賛同をいただきました。早速、ご本人と連絡を取りましたところ、大変お喜びになり多額の賛助会費のご協力をいただき、新会員としてお迎えすることになりました。

おわりに、今後もなお一層、同窓会に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員諸兄の益々のご健康とご繁栄を祈念申し上げて、会務報告とご挨拶といたします。

ご挨拶と学校の動向

理事長・校長
関　口　隆　司

中学校長兼高等学校長1年生として平成18年度の1年間を無我夢中で過ごして参りました。おかげさまで関係者の皆様のご支援・ご協力を賜り、職務を遂行することができました。中高一貫コースと高入生コースの生徒・教職員の交流も徐々にではありますが成果をあげ始めております。様々な学校行事（完全6日制）と教職員のシフト（週休2日制）も軌道に乗り、今後も少人数制で生徒の個性を良い方向に導くため教育内容の充実に邁進する所存です。どうぞ引き続き同窓生の皆様の忌憚のないご意見を賜りたく存じます。

以下に若干のご報告を申し上げます。

1. 学校行事

平成18年度の目黒学院では、ほぼ予定通り順調に学校行事・教育活動が行われました。

高入生では始業前の朝学習、進路選択のための各種ワークシート、本校教諭や外部講師による講演等に出席することを「キャリアデザイン」として単位認定し、中高一貫生でもキャリアガイダンスや職場訪問等のキャリア教育を推進し、目黒学院独自の「総合的な学習」として位置づけております。

2. 教職員の異動

池原清先生（保健体育）、斉藤穣亮先生（理科）が定年退職されました。斉藤先生は引き続き常勤講師として高入生の理科をご担当されております。現在の専任教員数は64名（常勤講師を含む）、専任職員数は7名となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ゴルフ部・水泳部でした。このうち水泳部は200メートル平泳ぎで全国大会に出場しております。また、空手道部が5月に熊本で行われた火の国旗全国空手道優勝大会に出場したほか、本校の部活動ではありませんが、フィギュアスケートではインターハイに出場いたしました。

4. 大学進学状況

本校のホームページに本年度の大学進学実績を掲載しております。一貫生の第7期生が現役で東京工業大学に合格したほか、早・慶にも複数名が現役合格いたしました。昨年の東京大学合格に続き、大学入試に不可能がないことがまさしく実証されたのではないかと思います。また、医学・歯学系も含め、妥協せずに自分の行きたい大学、学びたい学部にこだわって合格を手にする生徒が徐々に増えている様子が窺えます。在校生のほとんどが大学進学希望であり、生徒の志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の男子を育成したいと考えております。

5. その他

平成18年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、1名に対して授業料の全額（399，600円）免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

平成18年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で33万円の支出超過を予定して開始されたが、収入はほぼ当初予算どおり、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算とは一転して18万円の収入超過となった。

この結果、次年度への繰越金は197万円となった。

1．収入の部

同窓会費、入会金は予算どおり収受し、賛助会費、雑収入は予算比で若干減少したが、収入合計では、ほぼ予算どおりの結果となった。

2．支出の部

通信費及び会議費をはじめとしたすべての支出科目において節減努力した結果、予算対比で減少した。

平成19年度予算について

平成19年度収支予算は、平成19年度の事業計画と平成18年度の収支実績とを勘案して編成した。

1．収入の部

同窓会費は561名、入会金は226名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は前年どおりの650口を収納予定として予算計上した。

本年度は、定期総会が開催されないことに伴い、総会会費及び寄附金収入については、予算未計上とした。

2．支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②平成20年3月卒業の卒業生名簿の作成、③在校生の部・同好会に対する補助等が主なものである。これ以外の経常的運営費については、明年の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成した。

この結果、次年度への繰越金は198万円を予定し、単年度収支ではわずか1万円であるが収入超過となり、平成13年度以来6年ぶりの収支均衡予算となった。

平成１８年度決算報告書

平成１８年４月　１日から
平成１９年３月３１日まで

（収入の部）　（単位：円）

科目	予算額	決算額	摘要
同窓会費	1,573,500	1,573,500	570名分
入会金	354,000	354,000	177名分
賛助会費	650,000	625,370	181名分
総会会費	0	0	
寄付金	0	0	
雑収入	81,700	71,232	会報掲載広告代及び預金利息
当期収入合計	2,659,200	2,624,102	
前年度繰越金	1,793,124	1,793,124	
収入合計	4,452,324	4,417,226	

（支出の部）

科目	予算額	決算額	摘要
総会費	1,393,000	1,264,139	
行事費	0	0	
通信費	1,220,000	1,111,349	会報発送郵便料
印刷費	170,000	151,950	賛助会費振込用紙
雑費	3,000	840	
会議費	117,000	41,802	
役員会費	105,000	38,232	出席者食事代
委員会費	0	0	
通信費	10,000	3,570	開催通知郵便料
雑費	2,000	0	
補助費	380,000	290,000	
部・同好会補助	350,000	260,000	在校生部活動補助
文化祭補助	30,000	30,000	梧林祭の祝金
事務費	595,000	434,413	
人件費	370,000	297,399	会報発送手間代･役員手当等
事務消耗品費	120,000	95,514	会報発送用封筒代
交際費	100,000	40,350	慶弔費
交通費	2,000	0	
雑費	3,000	1,150	
名簿費	410,000	404,800	
機関紙	210,000	207,400	15,400部作成
卒業生名簿	200,000	197,400	平成19年3月卒業生分 400部
予備費	100,000	5,000	
当期支出合計	2,995,000	2,440,154	
次年度繰越金	1,457,324	1,977,072	
支出合計	4,452,324	4,417,226	

［特別積立金］

（単位：円）

保管種別	本年度末	前年度末
定期預金	7,000,000	7,000,000

〔会計監査報告〕

私たちは、平成18年4月1日から平成19年3月31日までの平成18年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成19年4月27日

会計監査　藤田　貞男
会計監査　石渡　博己

平成１９年度予算書

平成１９年４月　１日から
平成２０年３月３１日まで

（収入の部）　（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	増減
同窓会費	1,796,200	1,573,500	222,700
入会金	452,000	354,000	98,000
賛助会費	650,000	650,000	0
総会会費	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑収入	85,500	81,700	3,800
当期収入合計	2,983,700	2,659,200	324,500
前年度繰越金	1,977,072	1,793,124	183,948
収入合計	4,960,772	4,452,324	508,448

（支出の部）

科目	予算額	前年度予算額	増減
総会費	1,371,500	1,393,000	△ 21,500
行事費	0	0	0
通信費	1,200,000	1,220,000	△ 20,000
印刷費	170,000	170,000	0
雑費	1,500	3,000	△ 1,500
会議費	116,000	117,000	△ 1,000
役員会費	105,000	105,000	0
委員会費	0	0	0
通信費	10,000	10,000	0
雑費	1,000	2,000	△ 1,000
補助費	380,000	380,000	0
部・同好会補助	350,000	350,000	0
文化祭補助	30,000	30,000	0
事務費	594,000	595,000	△ 1,000
人件費	370,000	370,000	0
事務消耗品費	120,000	120,000	0
交際費	100,000	100,000	0
交通費	2,000	2,000	0
雑費	2,000	3,000	△ 1,000
名簿費	410,000	410,000	0
機関紙	210,000	210,000	0
卒業生名簿	200,000	200,000	0
予備費	100,000	100,000	0
当期支出合計	2,971,500	2,995,000	△ 23,500
次年度繰越金	1,989,272	1,457,324	531,948
支出合計	4,960,772	4,452,324	508,448

母校クラブ紹介①

テ　ニ　ス　部

クラブ顧問・教諭
池　田　美代子

平成12年、同好会として活動していたテニスの顧問を引き受けてくれないかとの話があった。自分では遊び程度でラケットを握ったくらいで指導は出来ないがと断った上で、顧問を引き受けることになった。たまたま自分のクラスにテニスをやりたいという生徒がいたこともその大きな理由である。

当時、5～6名の会員がいたが、新一年生が10名程入会した。同好会は生徒会からの予算が年間1万円である。高体連の加盟費を払うと、会費はそれで消えた。都大会の参加もそれ以外の試合参加費も個々人の負担であった。ボールも使い古しを寄付してもらったりしてやりくりしていた。2年間くらいこうした活動をしていたが、生徒たちの熱意もあり、部への昇格を職員会議に提起し承認された。以来、大会で上位まで行くのはなかなか難しいが、毎年都大会、区民大会、私学大会等には必ず参加している。ちなみにこれまでの成績で最高は、目黒区民大会高校生の部で3位入賞である。毎年夏合宿を実施し、ＯＢも参加し部員の交流を図っている。

（筆者は写真右から3人目）

油圧の総合メーカー
YUKEN
油研工業株式會社
（東京証券　第一部上場）
結　城　重　一
（第１期卒業）
本　　社
相模事業所　神奈川県綾瀬市上土棚中4-4-34
ＴＥＬ（0467）77－2111
営業本部　東京都港区芝大門１-４-８清和ビル
ＴＥＬ（03）3432－2111

＜監査業務＞
ロイヤル監査法人
社員代表　公認会計士
宮　川　良　雄
東京事務所　〒152-0003
東京都目黒区碑文谷2丁目7番17号
TEL 03－3716－7666
FAX 03－3712－1365
〈財務、税務、登記　企業診断、相続税〉
公認会計士、税理士、司法書士、中小企業診断士
宮川良雄事務所　所長 宮川良雄
所在地　Tel ・Fax　〒　同上（第1期卒業）

母校クラブ紹介②

フィギュアスケート

クラブ顧問・教諭
矢　野　礎　一

平成13年4月に活動開始以来、選手は大活躍しています。

インターハイ出場5回のうち、個人優勝1回、団体総合優勝2回。団体総合準優勝1回。よって東京都の最優秀選手として6名の選手が表彰されました。国体関係では個人準優勝、団体優勝。全日本選手権では個人準優勝。世界ジュニア選手権では個人第4位などがあります。紹介したこれらはすべて、男子シングルの種目ですが、昨年優勝した水谷君はアイスダンス3連覇です。ちなみに、アイスダンスでの水谷君のパートナーは、澤山瑠奈さんでした。

澤山さんは本年高校を卒業し、2007年度の東レ水着キャンペンガ―ルに選ばれている美人アスリートです。水谷太洋君は、アイスダンス部門で、日本スケート連盟の強化選手になっています。今後の活躍が大いに期待されます。

皆様の応援をよろしくお願いいたします。

（上記原稿は、2006年12月20日発行の目黒学院高等学校新聞「梧林」第2号に掲載された記事を、学校側の了承を得て転載させていただきました。）

※本誌編集委員注記：水谷太洋君は、本年3月卒業し現在では、同窓会の一員となっております。

TOHO 東邦工業株式会社
Toho Industrics & Co.,Ltd.

●業務内容：熱硬化性プラスチック用インサートナット
熱可塑性プラスチック用インサートナット
携帯電話対応インサートナット
ステンレス精密シャフト
●使用機械：スイス型自動旋盤、NC複合加工自動旋盤
NC自動旋盤
ISO 9001.14001 認証取得

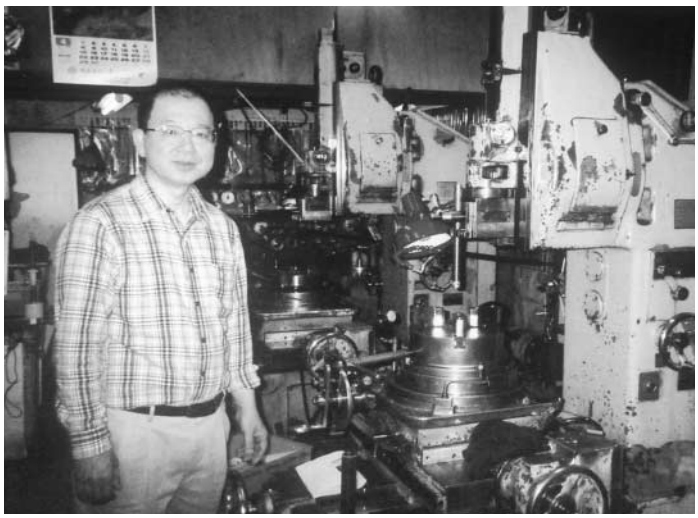
代表取締役 土　方　国　任（31年3月卒）
Hijikata Kunitaka

本社工場
東京都目黒区下目黒2-12-3
TEL03－3490－1311(代)
FAX03－3490－3848
大岡山工場
東京都目黒区大岡山1-6-10
TEL03－3717－3153
FAX03－3717－6790
品川工場
〒140-0013
品川区南大井1丁目20番7号
TEL03－5764－3611
FAX03－5764－6760

会員紹介①

思い出～そして今

髙　澤　　隆
（昭和42年3月卒）



高校生活の思い出と言えばブラスバンド部の活動である。数名の有志が創始してから3年目に私達8名が入部し部員も約15名と増え、最小限の楽器編成が組めるようになった。先輩たちの熱意ある教えで数ヵ月後には朝礼時に演奏するようになっていた。私が2年生の時に、顧問として部の一期生である青山さんが指導することになり、また機械科の講師でもあったことで学校側との折衝を有利に進めてくれたことや、これまでの活動が認められ全部活の中で最高の予算を頂き楽器不足は解決した。部員も更に増え、神宮球場での野球部の応援、体育祭や梧林祭での演奏等の活動を通してレパートリーも増え、マーチ、ミュージカルナンバー、スゥイングジャズ、とあらゆるジャンルに渡って演奏できるようになった。また一方では皆との話が盛り上がり真夜中の大雨が降る中、学校から部員全員で歩いて鎌倉を目指した。しかし川崎駅で断念し結局そこから鎌倉まで電車で行ったことが今でも我々の間で良い思い出になっている。

目黒高校の機会科を卒業後、父の工場を継ぎ、機械部品加工の仕事に現在まで36～37年従事している。主な仕事は、スロッター（立削盤）やブローチ盤を使って、例えばモーターのシャフト（軸）にカップリング（継手）を取り付けた時に空回りしないよう、その内径に楔を入れる為のキー溝を切る。さらに耐久性を高めるためには、角スプライン、インボリュウトスプライン、セレーションという複数の溝で出来た形状が必要になる、これら特殊加工等をしている。今は、コンピュータ導入で制御できる時代であるが、コンピュータにも出来ない微妙な加工もある。これまで、オイルショック、円高不況、バブルの崩壊、中国への工場移転等による不況に

も、特殊な機械加工をしていたため、大きな影響を受けずに済んだ。

私の仕事でのモットーは、①約束したら必ず守る、②手抜きは決してしないである。今日まで何とか長くやって来られたのは、やはり信頼を得られるよう努力してきたからだと思う。現在、未だに好奇心旺盛な91歳の父親と、毎日、工場までお茶を入れに来てくれる86歳の母親も元気である。また、何かと応援してくれる妻と2人の娘にも感謝している。

団塊の世代の一人である私は、今年59歳で会社に勤めていればそろそろ定年を迎える頃である。今では仕事が生きがいとなり、これからも健康で一日でも長く働き続けていかれることを願っている。

（昭和40年、池上、国道１号線　ＩＢＭ前）

会員紹介②

我が人生の転機

大　川　信　也
（昭和57年3月卒）

私は、昭和57年度普通科卒業の大川信也と申します。

どちらかといえば地元の県立高校の受験に失敗し、唯一合格したのが目黒高等学校でした。消極的な性格だった私には、このような高校生活のスタートに希望を見出せずにおりました。

しかし、地元の中学の先輩から「どんな経緯があっても、楽しい高校時代にするかどうかは、自分自身で決めるものであって、環境によって左右されるものではない」とアドバイスされたことや担任の柴田先生に励まされ、自ら積極的に高校生活を楽しむように心がけました。すると自然に同級の友ができ、さらにテニス同好会に入部。苦しい練習の中多くの友人に恵まれました。そして3年生になって副部長となり、同好会を正式な部組織にしたいと真剣に取り組んだことなどが思い出に残っております。

さらに、2年生のときに同級の友と「高校生活をもっと楽しく変革したい」などと話し合い、生徒会にも積極的に参加しました。私は先輩方や同級の櫻井君の薦めもあり、生徒会長になりました。当時は栗原先生をはじめ関係の諸先生には大変お世話になりました。私の任期中にラグビー部が全国制覇したことが、他校の友人に対する自慢となりました。

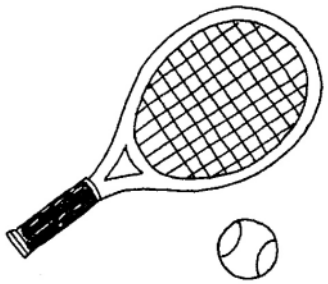
ともあれ、このかけがえのない3年間の高校生活が金の思い出となって、その後の私の人生に大きな影響を及ぼしたのです。

3年生になり卒業後の進路に悩みました。私は大学進学を希望しておりましたが、ちょうど3年生のときに父親が事業に失敗し、多額の借金を抱えてしまったのです。推薦入試のお話もあったのですが、経済的に困難だったこと、父親の仕事を手伝う必要に迫られ、結局受験を断念してしまいました。しかし大学進学の希望を果たしたい一身で、アルバイトと父親の仕事の手伝い等に追われるなか、1年間の浪人生活を経て、地元の先輩や友人からの励ましのお陰で、東洋大学の2部に入学することができました。働きながら学ぶという大学の授業は、眠気との戦いでしたが無事4年間で卒業しました。

その後、医薬品商社に営業社員として入社。5年後に現在の川崎総合法律事務所に転職しました。今では、弁護士6名、事務職員10名の陣容となり、事務局長という重責を担っております。仕事では、様々なクライアントの相談に対し、事務局の大黒柱として、弁護士の手足となって東奔西走しております。

地域においても、地元の議員を中心にソフトボールチームを作り、地域にも同年代の友人が出来、まだまだ青春という感じです。現在は、妻と最近口がたっしゃになった娘との3人暮らしです。

振り返れば、私の高校生活の3年間が私自身の転機だったと感じられます。今後は、恩ある本校の同窓会役員として、少しでも本校の発展にお役立てればと考えております。



同窓会賛助会費
納入者のご芳名

平成18年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、
下記の181名の方々です。ここに、謹んでご報告申しあげます。

★印は新規納入者

ア 秋本 康夫
阿妻 靖彦
朝倉 祥吾
安達 富夫
麻生 貢司
新井 克尚
有我 洋

イ 石毛 一寛
石渡 博巳
市川 清夫
市川 信憲
市川 康憲
伊藤 赫
伊藤 周一
稲毛 慎一
稲葉 好彦
★乾 明成
猪瀬 誠
伊福 尚登

エ 遠藤 尚之

オ 大石 和志
大河原 行雄
大澤 勝
★大谷 一男
★大本 康介
★大貫 佑馬
★岡本 健二
岡本 誠之助
荻堂 盛久
荻野 篤
落合 祥豊
小野寺 勉

カ★海藤 幸雄
柿澤 収
柿ノ迫 国夫
春日 雄一
★加藤 太地
★香取 芳則
金井 信夫
★金内 陸郎
金子 元二
金子 雄一郎
河合 章雄
川瀬 年茂
甘 国輝
菅野 吉郎

キ 菊地 明廣
北根 益巳
木村 弘之
木村 義男
喜友名 朝典
清原 相皓

ク 久我 茂三郎
楠本 盛仁
久保 好生
★熊井 健二
黒田 康弘
桑原 徳郎

コ 小池 浩之
小岩井 晃
★香村 雄史
古賀 正勝
★小作 力雄
小嶋 靖夫
小荷田 有弘
★小早川 卓也
★小林 和也
小林 啓二
小宮 一秀臣
小室 義徹
★小山 司
近藤 眞
★近藤 陽二郎

サ★斉藤 祥一
五月女 進一男
佐久間 重男
佐々木 拓也
佐藤 明朗
佐藤 静男
佐藤 二郎
佐藤 孝夫

シ 宍戸 隆一
★篠崎 昭矩
篠崎 実
四宮 隆介
柴田 治男
嶋 宜之
★嶋貫 壱是美
下田 将

ス 杉本 法男
鈴木 昭次
鈴木 邦
★鈴木 大介
★鈴木 敏一
鈴木 敏彦
鈴木 佑一郎
須藤 昭男

セ★関 信之

ソ 外山 知幸
外山 昇

タ 高橋 桂吾
高橋 勉
高橋 英雄
高橋 弘樹
高橋 弘樹
滝口 勇
竹井 実
竹沢 洋行
武田 敬
★田中 洸平
田中 清三郎
★田中 廣實
★田中 隆平
丹治 誠一

チ★知久 将

ツ 土山 勝治

ト 東条 諭二郎
戸澤 正則
富永 淳仁

ナ★中川 公一郎
中澤 康男
中島 良廣
永田 長三郎
★中村 重和
★中山 佳英

ニ★西山 賢一

ヌ 沼田 浩貴

ハ★橋本 友和
★長谷川 祐介
花井 弥一
★早田 俊治

ヒ 土方 国任
土方 康充
比田井 洋司
日高 粒二
平賀 淳人
平嶋 和元
平畑 龍芳
廣木 正和
★廣瀬 晋

フ 福田 和泰
藤井 茂
藤井 辰男
★藤田 和也
藤田 貞男
★藤宮 由久
藤野 保
藤平 雅司
船木 昭男

ホ 星野 信男
洞口 芳彦
★堀口 浩典
本多 誠
本間 徹也

マ★前川 達也
★前澤 健太郎
前嶋 喜義
舛巴 熙

ミ 水谷 清
水野 信一
★水村 亮
宮川 良雄
宮城 勇

ム 村山 栄助

ヤ 矢内 敏郎
矢川 福太郎
屋敷 正二
矢島 陸雄
矢島 陽一郎
矢野 源太郎
山口 克裕
山口 敏夫
山崎 俊男
★山根 瞬
山内 慶次郎

ユ 結城 重一

ヨ 横山 貴史
★吉村 允輝

ワ 分野 和昭
★渡辺 貴大
渡辺 吉郎

計181名
（内新規納入者43名）

機械工具、鋲螺、工作機械、OAFA機器
株式会社 マッツ
代表取締役 松本誠治
本社／東京都品川区戸越3－4－18
〒142-0041TEL3788－1111（大代表）

自由が丘 南国飯店 上海風味 中国料理
代表取締役 諸根雄（ツー コン ユウ）（昭和53年卒）
◎大小個室宴会場 8名～80名様位
◎ご予算等お気軽にご相談下さい！
◎Ⓟ有
◎水曜定休日
TEL.03-3722-3211
FAX.03-3722-3034
「ぐるなびHP」http://gnavi.joy.ne.jp/
自由が丘駅下車歩4分・学園ストリート田園調布方面
東京都世田谷区奥沢5－40－12

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

井口	見司（父）	昭和53年3月卒
	勇司（子息）	平成19年3月卒
根岸	克臣（父）	昭和52年3月卒
	征央（子息）	平成19年3月卒
宮上	和人（父）	昭和56年3月卒
	貴光（子息）	平成19年3月卒
吉田	仁三郎（父）	昭和44年3月卒
	健太郎（子息）	平成19年3月卒
※江平	貞弘（父）	昭和38年3月卒
	俊康（子息）	平成９年3月卒

※江平様は、平成９年に親子二代の卒業生となりましたが、学校と本会との連絡不足により、これまでご紹介もれとなっておりましたので、今回掲載させていただきました。

★同窓会ホームページのアドレス★

http://www.meguro.ac.jp/Kiri/

◆急募！　同窓会活動にご協力いただける人材◆

対　象　　年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。

連絡先　　安達富夫　TEL　090-4063-6580
E-mail：kiri@meguro.ac.jp

●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をおまちしています。

〔要領〕開催の模様（開催日時、場所、参加者数等）を、字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記にお送りください。

〔宛先〕〒153-8631　目黒区中目黒1－1－50
目黒学院高等学校同窓会事務局　まで

◆クラス会開催報告◆

石渡博巳
（昭和32年 3月卒）

第22回クラス会を平成18年11月11日（土）午後5時30分から中目黒の焼きとり居酒屋「大判」において、開催しました。今回の参加者は9名で、毎年参加者が少なくなっていくのは、淋しい限りです。

当日は、朝から雨が降りうすら寒い日でしたが、参加者はそんな中お集まりくださいました。6年ぶりに元気な顔を見せてくれた鈴木君、また、広瀬君、奥田君は2年ぶりの参加です。まずは再会を祝う乾杯で始まり、近況話で盛り上がったところ、ブラジル在住の山岡君からの手紙が紹介されました。

懇談は尽きることなく進み、次回は温泉で元気に再会することを約束し、記念写真を撮って午後8時45分にお開きとなりました。

（筆者は写真後列の右から2人目）

賛助会費の納入をよろしくお願いいたします！

賛助会費：一口1,000円

賛助会費は一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、財政面で安定した本会運営を行っていくために、多数の会員諸兄のご協力をお願い申し上げます。

※納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。